

第1回 春日山原始林授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学研究員 杉山 拓次

実施日：2020年7月11日（土）10:00～12:00

参加者：現職教員等：中澤哲、中澤敦、新宮、柚木、挽地、山本、川崎、吉田

学生：福井、小田垣、山崎、松岡、稲富、江口、西田、飯村、野村、木村、下原、西條、
福田、古橋、藤本、西田、谷垣

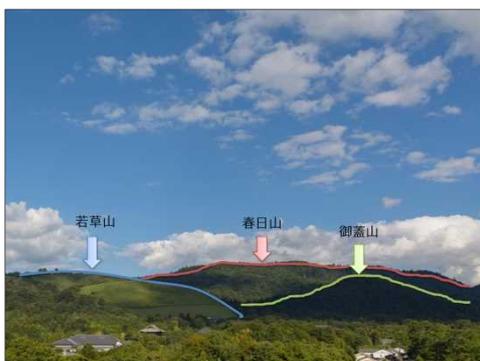
大学教員：中澤、大西、太田 27名

実施方法：ZOOMによるオンラインミーティング

■セミナー概要

世界文化遺産・特別天然記念物「春日山原始林」を活用した授業づくりを考えていく上で基礎となる春日山原始林の現状と課題について、話をすると共にグループワークにより情報共有を行なった。

■春日山原始林の概要



指定理由

春日大神の神山として古来殆ど斧鉞（ふえつ）を加えず、樹木の巨大なもの多く、暖地の草木の種類が多いばかりでなく、寒地性の種類を交え、また、ホンゴウソウ、カギカヅラ、ナチシダ等の如き亜熱帯性植物もあり、特に都会地に接してかかる原始林とその特異の林相のよく保有されていることは稀有のことであって、学術上の価値が深い。

文化庁ウェブサイトより

特別天然記念物

||

自然的価値

春日山原始林の位置づけ



日本人の伝統的な自然観とふかく結びついて保護されてきたということが、人とのかわりを示しています。スケールの大きな鎮守の森なのです。このため、春日大社と一体のものとして文化遺産に含まれています。

奈良市ウェブサイトより



人の手が入った原始林？

原則的に手を入れず、災害等が発生した場合のみ、在来の種を補植するなど、人の利用を目的とするのではなく、歴史・文化的背景および景観維持を考慮し、維持されてきた原始林。

日本人の伝統的な自然観と ふかく結びつき保護されてきた森

■春日山原始林の課題

春日山原始林に起きていること

春日山原始林は、いくつかの要因により、大きくその生態系が損なわれており、原始林の特徴である照葉樹林を維持できなくなる恐れが指摘されている。

後継樹の生育不良

原生的な照葉樹林を主に構成しているシイ・カシ類などの実生や幼樹が少なくなっています。
このため、原始林が将来的に衰退していくことが危惧されています。



下層植生の衰退

原始林では、絶滅危惧種を含む希少な下層植生が、今もなおみられます。その一方で、土壌流出が原因となり、シダ植物をはじめとした下層植生が衰退しています。

原始林と生き物の共生

原始林内に生息するシカなど野生動物の食害により、植生の多様性が劣化しており、貴重な照葉樹林や多様な植生の維持のために野生動物との共生が課題となっています。



ナギ・ナンキンハゼの拡大

シカの忌避植物であるナギやナンキンハゼが、原始林内へ拡大し、着実にその生息範囲を広げているため、原生的な照葉樹林が徐々に姿を変えていきます。

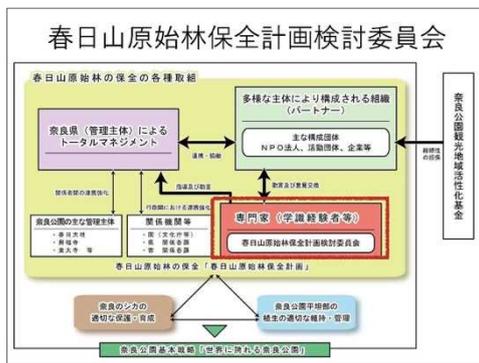


ナラ枯れ被害の拡大

カシノナガクイムシが樹木に侵入し、媒介した共生菌（ナラ菌）によって樹木が枯死するナラ枯れが、原生的な照葉樹林を構成するシイ・カシ類に発生しています。



■春日山原始林の保全の取り組み



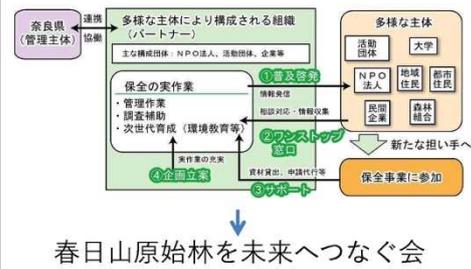
春日山原始林の10の保全方策

1. 照葉樹林を良好な状態で維持する保全方策を実施する
2. 照葉樹林の多様性を維持する保全方策を実施する
3. 後継樹を育成し文化財としての価値を修復する保全方策を実施する
4. 外来種ナンキンハゼの侵入を抑制する保全方策を実施する
5. 常緑針葉樹ナギの拡大を抑制する保全方策を実施する
6. ナラ枯れの拡大を抑制する保全方策を実施する
7. 花山・芳山地区人工林の保全・利活用を実施する
8. 保全事業を円滑に実施し得る仕組みづくりを行う
9. 多様な主体の参画を図る
10. 春日山原始林に関する基礎情報のマネジメントを図る

植生保護柵の設置



保全の担い手組織の設立



春日山原始林を未来へつなぐ会



■春日山原始林を未来へつなぐために必要なこと



「春日山原始林を未来へつなぐ」ことの意義は？

・天然記念物・世界文化遺産・照葉樹林

この理由で、本当に未来へつなぐことができるのだろうか？

必要なのは、共感＝「自分ごと化」

春日山原始林を未来へつなぎたいという人が、問題を自分ごと化し、より多くの共感を得られるような取組をすることが重要。

各項目ごとにグループセッションを実施し、それぞれで気になった点等について意見交換を行なった。最後に ESD の 6 つの視点から、春日山原始林でどのような授業ができそうかを考え、最後に全員で ESD との関連で考察したことをチャットに書き込み共有した。

出ていた意見（抜粋）

- ・原始林を自分事として捉えるためには、どのような活動ができるのだろうか。身近な山に着目させたり、他の山を見せる方が良いのか。学校現場では、もし春日山に行くとしたら、1日しか時間がとれなさそうなので、現場で貴重な森林と思える活動を取り入れていく方が良いのか…。
- ・「きっかけ」をつくるのが「自分ごと化」への第一歩。学校教育の中で ESD をやっていくことは、学校以外の社会と「つなぐ」ことだと思います。
- ・「春日山原始林と人・シカが『共生』するってどういうこと？」に着目した授業づくり
- ・ビンゴカードを使って原始林内のたくさんの種類の植生を子どもたちにゲーム感覚、探検感覚で見つけてもらう（多様性）実際に見て感じることで、知らないから自分事につながるのではと思いまし

た。

- ・現状を知るためには、先ほど杉山さんが仰っていた、防鹿柵内外を見せると、視覚で比較しやすいのではないのでしょうか。
- ・春日山原始林の植物や発見したことを写真でとり、図鑑を作る。自分が見つけたものと他の子が見つけて来たものを見せ合ったり、紹介し合うことで多様性を理解できるのではないかと思う。
- ・鹿と森林の関係のジレンマを授業化する。